

【視察調査報告書】

会 派 名	自民党新政会
参 加 議 員	【議員】 6名 小林秀司、西室真希、立川寛之、内田由香利、長谷川順子、大竹利明
日 程	令和 5年(2023年)10月26日(木)
詳 細	
視察日及び視察先	10月26日(木) 東京都 多摩市
視 察 内 容	多摩中央図書館
概 要	<p>1 施設概要</p> <p>【施設規模】敷地面積 4273.31 m²、建築面積 2010.87 m²、 延床面積 5439.29 m² 4階建て(地上2階、地下2階) 蔵書数約 60万点(開架 25万点、閉架 35万点)</p> <p>【施設の特長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 多摩中央公園内に立地しており、公園と一体的に活用可能となっている。 ➤ 地上部(2階)が主として市民利用に供しているフロアとなっており、フロアごとに「広場系」「静寂系」とコンセプトを変えている。 ➤ 本施設は ZEB - Ready の認証を受けているほか、建築時に伐採した公園の樹木を内装や机の一部に有効活用している。 <p>2 視察概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 多摩市は元々図書館の利用率が高い(全国第3位)という特長がある。貸出冊数は年間で一人当たり9冊となっている。 ➤ 中央図書館の建設にあたり、基本構想策定委員会を設置し議論した。委員長にはノンフィクション作家の柳田邦男氏を委員長に迎えて基本構想を策定した。 ➤ 基本構想に沿った設計・建設を進めるため、公開プロポーザルを実施した結果、(株)佐藤総合計画が受託者となった。(同社は都立多摩図書館、長崎県のミライ ONなどを手掛けた実績がある) ➤ 多摩センターエリアでは、同時並行で様々な事業が進められており、2022年にはパルテノン多摩のリニューアルが竣工、図書館に面しているレンガ坂の改修は本年6月に竣工、中央公園の改修は2025年3月に完了する予定となっている。 ➤ 主に市民が利用するのは地上部の2階で、地下の2フロアは書庫などバックヤード機能としている。地上部の2フロアは、2階の広場系開架と1階の静寂系開架とで明確にコンセプトを変えている。 ➤ 広場系フロアは、中央公園と直結した入口があるため開放的な空間としており、おしゃべりも自由にできる。また市民活動を支援する機能を持ち、活動室(有料)を3部屋用意している。また、NPO 法人障害者自立支援センター多摩が運営するカフェが入っている。

- 2階にはサテライトカウンターがあり、読書相談に応ずるほか、テーマごとのお勧め図書を展示することが出来る。当日は、丸善多摩センター店とのコラボレーションで子育てに関する書籍が展示されていた。
- さらに障害者への配慮として、専用の書架を配置し大きな文字の本や手作り本などを配架している。
- 若者が読書に親しめるよう「ティーンズコーナー」を設け若者向けの本を中心に配架するほか、図書分類ごとにキャラクターを作り、本を身近なものとするような工夫もされている。
- 1階の静寂系フロアは、従来の図書館の機能を有しており、図書分類（日本十進分類法）に沿った書架が並んでいる。
- グループ研究室や個人研究室など集中して研究活動が出来る空間を設けている。
- 特徴として多摩ニュータウン開発時の貴重な資料を都市基盤整備機構から譲り受け「地域資料」として配架している。
- 図書の予約、受け取りはすべてシステム化されており、無人端末で貸し出しが出来るようになっている。
- 地下のバックヤードでは一般的な図書館と同様、開架図書の入れ替え作業を行っている。また、図書館システムを市内の学校と連結しており、システムを通じて学校からのオーダーに基づきコンテナ詰め作業を行っている。
- 中央図書館は傾斜地に作られており、この地下階から直接配送用の駐車場に出られるようになっている。各学校向けにパッキングされた図書は、この専用駐車場から配送業者によって配送される形となる。
- 多摩市は市（執行機関）と議会が共同で気候非常事態宣言を行っているほか、ゼロカーボンシティ宣言も行っている。そのため、中央図書館を整備するにあたっては環境配慮型の施設とすることとし、ZEB-Readyの認定を目標として設計を行った。
- ZEB-Ready 認証を取得するにあたり、建築的手法としては半地下、高断熱屋根・外壁、LOW-E ガラスの採用を実施。設備面では高効率空調を導入。さらに天井高が高いため効率化を図るために送風口をすべて床に配置している。さらに自然採光を取り入れつつ、タスクアンビエント方式の照明を採用するなど省エネ化に努めている。
- また、中央図書館は一時避難所に指定されているため、パワーコンディショナーを導入し、災害時にも自立運転を可能としている。

所 感 等
(意見・課題・
本市への反映な
ど)

- 中央図書館は本年7月に開館した。オープン初日と2日目は平均1万人以上が来館し、月平均でも約4500人であった。8月も堅調に推移し月平均約3300人、9月は2700人の来館者となっており開館2か月で旧図書館(本館)の利用者数を超えてしまったとのことである。特に年代別で20代以下の利用者数が前年同月比で3倍となるなど、ティーンズコーナーやラーニングcommons(グループ学習スペース)といった仕掛けが奏功したと言える。
- また、2階の広場系開架は中央公園から直結しているうえ、背の低い書架を配置していることで非常に開放感のある作りとなっており、旧態依然とした堅苦しい図書館のイメージを払拭している点も若者や子育て世代に受け入れられているのかもしれない。
- 多摩市は図書館のミッションとして「知の地域創造」を謳っている。その中核施設が中央図書館であり、単に本を親しむだけでなく、当該施設を核として市民活動の活性をも目指している。2階にはパートナーズスペースを設け、住民主体の活動を生み出していく意図があるようだが、現在のところ組織化には至っていないとのこと。例えば、市民活動支援センターの機能の一部を持ってくると、中央図書館に集う市民の中から志のある方を見出し、市民団体を育むといった取組が出来ると良いと感じた。
- 市の説明では20代以下の利用者数が伸びているとのことであったが、市内大学との連携はまだこれからのようである。昨今大学生の読書離れが深刻化している中で、「知の地域創造」拠点として大学との関係性を強化し、読書の普及・啓発を目的としたソフト事業が必要なのではないかと感じた。

視察の様子



本の貸し出しが無人端末でできる



中央図書館の建設の際に伐採した多摩中央公園の樹木を活用し、制作したテーブル
「中央公園のみどりの記憶をつなぐプロジェクト」の一環



読書・読み聞かせ以外にも、コンサートなど多様な目的に使用できる「ステッププラザ」



大きな文字の本などを配架した障害者へ配慮したコーナー